

- ◎ 死別の分かちあいの集い(予約・参加費不要)：13時～15時
- ・伴侶：毎月第一土曜日 (1/3、2/7、3/7、4/4)
- ・自死：毎月最終金曜日に変更 (1/30、2/27、3/27、4/24)

遅刻も早退も構いません。辛い寂しいお気持ちを吐露してください。
超覚寺門徒でなくても参加できます。お知り合いにも是非ご案内ください。

- ◎ 浄土真宗基礎講座(兼 超覚寺女子会定例会)：13時～14時
- 毎月28日(御開山 親鸞聖人の御命日)に開催しています。

今後の開催日 ⇒ 1/28(水)、2/28(土)、3/28(土)、4/28(火)
親鸞聖人が記された正信偈の講義や読経の練習をしております。法要前は、仏具のお磨きがあります。初めての方も遠慮せず、どうぞご参加ください。

◇ 報告・連絡・“僧”談

- ① 超覚寺の御門徒は、実はお寺の近隣にはほとんど住んでいらっしゃいません。原爆で絶えたり郊外に移った家が多いからでしょう。また現在の御門徒の約2割は県外にお住まいです。他のお寺に比べれば超覚寺の法座にお越しいただくのも大儀だと思っております。11月の報恩講も大勢お参りくださり無事お勤めできました。
- ② 上記の理由で、法座のお手伝いは超覚寺近隣の方をお願いしております。幸い多くの方がお手伝いくださり人手は余るくらいです。ですから、お手伝いをお願いしていない方々も、どうぞ気兼ねせずにお参りください。
- ③ 夏頃に超覚寺門徒納涼会と称して、**広島カープ観戦(マツダスタジアム)**を企画しております。日取りや参加費用は未定ですが、パーティーフロアを数十人分借りようと思っております。対戦カードの希望や参加予約を受け付けておりますので、どうぞご連絡ください。超覚寺の御門徒同士のつながりが広がりますように。
発行人：超覚寺住職 釈隆恩(和田隆彦) (* -)人 in 台掌

2014年12月年末 超覚寺報 第15号 【八丁堀だより】



真宗大谷派(東本願寺)



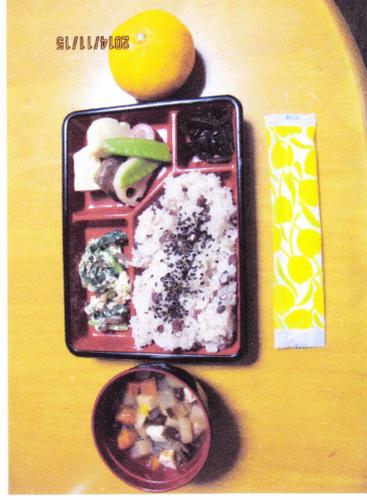
林鶯山 憶西院
超覚寺

RIN-OH-ZAN OKU-ZEI-IN CHOH-KAKU-JI
(since 仏暦2002, 西暦1619, 元和5)

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2
Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113
Mail : wada@namuamidabutsu.com
HP : http://www.namuamidabutsu.com

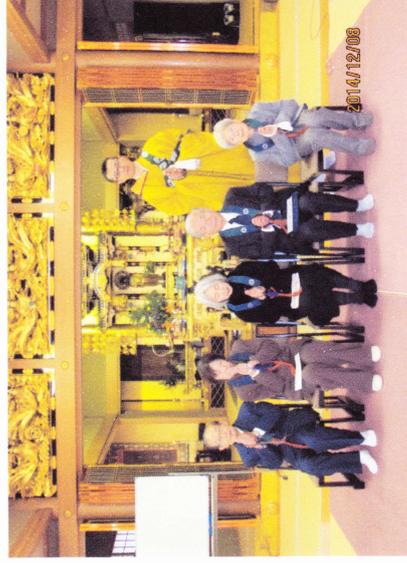
◇ “寺”後報告

- ① 11月15日(土) 超覚寺報恩講。
29名がお参りくださいました。一席目(10時～)は住職だけで、二席目(13時～)は市内寺院の住職4名も加わって、正信偈をお勤めしました。報恩講用の特別な読み方でしたが、皆さんも何とか読んでくださいました。法座では一席目の私が世界の宗教(特にイスラム教)の話をしました。二席目は、山陽教区安芸南組組長の灘尾師(銀山町徳栄寺住職)が親鸞聖人のご生涯について丁寧にお話くださいました。おとき(昼食)の献立は定番の精進料理(赤飯・煮ごめ・炊き合せ・白和え・昆布の佃煮・ミカン)でした。



- ② 12月8日(月) 釈尊成道会。

超覚寺は初めての帰敬式を執り行いました。東本願寺や広島東別院で帰敬式を受式された方のご家族や、合同墓に生前予約された方が受けられました。



- ③ 全国5ヶ所(東京・名古屋・大阪・広島・福岡)で開催された自死者追悼法要に参加しました。この法要は毎年、超宗派の僧侶有志が集まってお勤めするものです。多くの自死遺族の方々がお参りされ、法要後いろいろな思いを吐露されました。今後も自死対策に勤しまいたいと思います。

- ④ 12月18～20日 東本願寺お煤払い奉仕団。

お煤払いとは、全国から集まった御門徒の方々による大掃除のことで、先が少し曲がった竹の棒を持って横一列に並び、本堂の畳をたたきながら前へ進みます。そして、畳にたまった一年分の埃を舞い上げらせ大団扇で扇ぎ出すのです。年末の風物詩として、テレビや新聞のニュースなどでよく取り上げられています。全員が境内の宿泊施設で寝食を共にし、朝夕のお参り、仏教のお話、膝を交えての話し合いなどで二泊三日を過ごしました。超覚寺からは4名が参加しました。



◇ 仏前結婚式

仏前結婚式とは、仏さまの前で行なう結婚の儀式です。浄土真宗のご本尊である阿彌陀仏の御前で、おふたりの新たな門出を奉告いたします。
この度、僧侶有志とウエディングプランナーと共同で、仏前結婚式プランを始めました。35万円【税込み、司婚者・雅楽衆・衣装料(新郎新婦各1点)・美容料(新郎新婦)・集合写真・プロデュース料を含む】で挙式できるようになりました。
一般的な次第(式の流れ)は、【合掌礼拝・勤行・誓いの言葉・記念念珠授与・新郎新婦焼香・法話・合掌礼拝】ですが、指輪交換などおふたりのご希望に合わせて次第の変更が出来ます。もちろん、両家親族だけでなく、友人も呼べます。おふたりに関わった多くの皆さまで、おふたりの門出を慶ばせていただくのが仏前結婚式です。どうぞお気軽にご相談ください。

☆ 【 超覚寺の存在意義 】

普通のサラリーマン家庭で生まれ育った私と妻は、多様な御縁のおかげで超覚寺に入寺しました。私自身は東本願寺で得度し一年間修行しましたが、仏教界の将来にずっと不安を抱いています。しかし、総代さんをはじめ御門徒さんからいろいろご意見を賜り、現状のお寺を変えていこうとする超宗派の僧侶方とも知り合っており、伝統仏教の可能性が高いことに気づかされました。

明治期以降、従来はお寺が担ってきた教育や自治といった社会的機能がどんどん行政側に移されていきました。昨今では「葬式仏教」として唯一残された葬送儀礼の分野においても、異業種からの参入が相次ぎ、社会の中でのお寺の役割が縮小しています。今後、世の中の変化が激しくなれば、現在の超覚寺の姿を今のまま維持・継続する困難さも一層大きくなるでしょう。

しかし、お寺が大切なものを損なわずに次の世代へと繋げるためにすべきことは、何か真新しい取り組みを始めるのではなく、数百年お寺がやってきたことを現代風に維持・継続すべきなのではないかと思えます。最近ではグリーンケアやソーシャルキャピタルなど、これまで仏教界が持ち合わせていなかった外の視点から、お寺の役割を再評価しようとする動きも活発です。超覚寺でも、ご遺族の分かち合いや悩み相談、自殺対策などに関わり、寺報やホームページも作製しましたが、そのようにしてお寺の存在意義や有用性を社会に示すことは、今後お寺が存続していく上で欠かすことのできない大切なことだと思います。

先般の総選挙で、現代の日本国の枠組みが大きく変化する可能性が高くなりました。最悪の未来として、戦争などで既存の国のシステムが全てが破綻したと想定したら、私たちは社会をどこから再起動しますか？ 政治も行政も経済も機能しない世界で、何を手がかりに私たちは再び立ち上がることができるのでしょうか？ そんな時、親鸞聖人や蓮如上人の生き様や死生観が参考になると思います。

◎ 2015(平成27)年の法要日程予定

- ・1月1日(木・祝) 修正会 6時・8時・10時・12時
- ・3月22日(日) 春季彼岸会(+節談説教) 13時～
- ・4月5日(日) 花まつり(釈尊降誕会+初参式) 13時～
- ・4月14日(火) 仏縁広場法座(五ヶ寺連続講座) 10時～
- ・8月6日(木)・9日(日) 原爆忌
- ・8月13日(木)～16日(日) 盂蘭盆会 10時～
- ・9月23日(水・祝) 秋季彼岸会(+八丁堀寄席) 13時～
- ・11月21日(土) 報恩講(+仏教劇+ワークシヨップ) 9時半～
- ・12月8日(火) 釈尊成道会(+帰敬式) 13時～
- ・12月28日(月) 2015年総追弔会兼永代経法要 13時～

◎ 2015年 春季彼岸会法要

3月22日(日) 13時～ 勤行 (住職)

13時30分～(休憩)～15時

節談説教：祖父江佳乃師

昨年続き、愛知県名古屋市の有隣寺住職、祖父江佳乃 (そぶえよしの) 師に出講いただきます。女性初の節談説教使であり、私の師匠でもあります。

◇ 寺院護持費(墓地管理費)について

寺院護持費のお支払いは、お墓参りの際に玄関までお越しください。期日も設けておりませんので、焦らなくても大丈夫です(何年も滞納されては困りますが…)。なかなかお墓参りできない方は、どうぞ下記宛にお振込みください。

【 ゆうちよ銀行 15190-55770601 】

超覚寺 冬の法要のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、
ありがたく存じます。

さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(_ _)>

◎ 2015年 修正会法要

1月1日(木・祝) 6時～、8時～、10時～、12時～、

1年の計は元旦にあり。「今年もお念仏の道を歩ませていただきます」と、

阿弥陀様とご先祖様にご挨拶申し上げます。住職が約10分の勤行・法話を勤めます。お墓参りの際に、どうぞ本堂までお参りください。

◇ **2015(平成27)年の御法事をご確認ください。**

・**2014(平成26)年：1周忌** ・**2013(平成25)年：3回忌**

・**2009(平成21)年：7回忌** ・**2003(平成15)年：13回忌**

・**1999(平成11)年：17回忌** ・**1991(平成3)年：25回忌**

・**1983(昭和58)年：33回忌** ・**1966(昭和41)年：50回忌**

境内通路脇の案内板に該当者名を掲示してあります。ご縁のある方(お子さん・お孫さん)も集まりやすい日程を決められて、お早めにご連絡ください。

◇ **今年成人する方がおられましたら、お知らせください。**

お墓や超覚寺本堂にお参りされた方へ、東本願寺からのお祝いとして、

成人記念品(お念珠)を授与いたします。

成人式を機縁として、御仏壇や本堂の仏様へのお参りやご先祖様への

お墓参りが報恩謝徳であること、社会に出て悔やみの席などでお念珠を

把持することの大切さ等をお伝えようと思っております。

それはお寺が昔から大事にしてきた「コミュニティ」かも知れません。特に損得を超えた慈悲の心を大切にしてお寺のコミュニティは、たとえ通貨が機能せずとも、信頼を軸に人と人との協働が成り立ちやすいでしょう。信頼はお金では買えませんし、構築するにも時間がかかるものです。非常時にあわてても遅い。何気ない平常時から、非常時を見据えてお寺に集うということが大事だったのでないでしょうか。

あるいは「儀礼」。昔から民衆は戦乱に翻弄されながらも実直に生活してきました。「国滅びても、されど暮らしは続く」のです。たとえ今日から国家の枠組みが総入れ替えとなったとしても、いつもと変わらず家族が皆集まって、お仏壇の前でお念仏するところから一日がスタートする、そんなところに日本人の粘り強さの源があるのではないかと思います。現代は儀礼に疎い時代ですが、その辺りも現代人の弱さの原因でしょう。儀礼自体がそれを行う人の生きる力となります。自らの「死」を意識することも含め、人が日頃からお寺や仏壇に参る習慣を持つということは、日常に非常時の感覚を組み込むための巧妙な仕掛けだったのかも知れません。

そして「信心」。皆が共有する既存の既存の価値観が壊れてしまったとき、一体どこに立ち戻ればいいのか。そのようなときに立ち戻るべき原点として幾度となく参照され続けてきたのが、後に「仏教」と呼ばれるようになった、お釈迦様の思想ではないかと思えます。生老病死という人生の実相に向き合うための実践的な叡智、人間観や世界観の豊かな表現が仏教にはあふれていますから、原点に立ち返って価値観を再構築する場としても、お寺はとも適しています。

国のシステムやセーフティネットとは別次元で存在するセーフティネットが、お寺です。人々の平穏な日常の安心を支えながら、想像を超えた非常事態への準備を促すのが、お寺の布教活動というものなのでしょう。そのための僧侶の使命が、法儀相続と儀式執行であり、住職の使命は、寺院護持(預かったお寺を次世代に正しく繋ぐこと)なのだと思います。